

令和5年度第2回山形市少年自然の家運営協議会

日 時 令和6年2月14日（水）
午前10時から

場 所 少年自然の家 研修室

次 第

1 開 会

2 利用団体活動状況視察 山形市立千歳小学校1、2学年 155名

3 教育長あいさつ

4 運営協議会長あいさつ

5 協 議

(1) 令和5年度 事業報告について…………… P 2

(2) 令和5年度 利用状況について…………… P 3

(3) 令和6年度 運営方針（案）について…………… P 4～8

(4) 令和6年度 事業計画（案）について…………… P 9

(5) 令和6年度 利用予定について…………… P 10・11

(6) 山形市少年自然の家の今後のあり方の検討について…………… P 12～14

(7) その他

6 閉 会

少年自然の家運営委員名簿

No	会長 副会長	委員名	ふりがな	役職等	就任	規則15条
1		山 口 雅 和	やまぐち まさかず	山形市立西山形小学校長	令和5年6月1日～	1号委員 (小中学校長)
2		長 沼 政 直	ながぬま まさなお	山形市立第八中学校長	令和5年6月1日～	1号委員 (小中学校長)
3		辻 原 吉 子	つじはら よしこ	ガールスカウト山形県連盟連盟長	平成31年6月1日～	2号委員 (社会教育関係少年団体の役員)
4						3号委員 (山形市社会教育委員)
5		前 田 浩 一	まえだ こういち	山形市PTA連合会副会長	令和5年6月1日～	4号委員 (知識経験を有する者)
6		黒 沼 末 八	くろぬま すえはち	双葉を良くする会	令和3年6月1日～	4号委員 (知識経験を有する者)
7		大 嶋 民 代	おおしま たみよ	山形市レクリエーション協会理事	令和5年6月1日～	4号委員 (知識経験を有する者)
8		横 倉 明	よこくら あきら	日本蝶類科学学会理事	平成19年6月1日～	4号委員 (知識経験を有する者)
9		奥 山 健 悦	おくやま けんえつ	公益財団法人 やまがた森林と緑の推進機構 山形県県民の森所長	令和3年6月1日～	4号委員 (知識経験を有する者)
10		黒 木 佳 昭	くろき よしあき	元山形市立第八小学校長	令和5年6月1日～	4号委員 (知識経験を有する者)

令和5年度 主催事業成果と課題

山形市少年自然の家

対象	No	主 催 事 業 名	募集人員	参加人数	ね ら い	方向性 または 成果と課題	主 な 内 容	期 日
I 指 導 者	1	夏期利用指導者講習会 中Ⅱ 書面連絡 [小・中学校教員 等]	該当団体	—	各校の活動プランを、自然の家のねらい及び指導者や子どもの願いを反映したものにするために、実技研修・育ちを実現するための活動と支援についての研修・リスクマネジメント研修を行い、指導者の資質向上をめざすとともに、利用団体間の利用調整を行う。	夏期指導者講習会中はとし、利用調整については電話でのやりとりで行ったり、研修係がメインとなり調整を行った。秋期より通常の開催に戻し、先生方のニーズに応じた実技研修や、利用の仕方・リスクマネジメントの研修を行い、指導者の資質向上を図ることができた。 また、秋期指導者講習会の午後の部を、夏期・冬期と同様に江南公民館で行い、先生方の負担を軽減することができた。 若手の教員も増え、実技研修の機会の確保や事前研修の充実という意味においても、重要な機会ととらえ、さらなる研修会の充実を図っていきたい。	施設見学・実技研修〈選択〉 子どもの育ちを実現する活動と支援 リスクマネジメント 利用調整・事務手続	4月14日(金) 1部 9:00～12:00 2部 14:00～17:00
	2	秋期利用指導者講習会 [小・中学校教員 等]	該当団体	34名			施設見学・実技研修〈選択〉 子どもの育ちを実現する活動と支援 リスクマネジメント研修 利用調整・事務手続	8月1日(火) 1部 9:00～13:00 2部 14:00～17:00
	3	冬期利用指導者講習会 [小・中学校教員]	該当団体	56名			子どもの育ちを実現する活動と支援 リスクマネジメント研修 利用調整・事務手続	12月1日(金) 14:20～16:50
	4	利用指導者講習会 中Ⅱ 団体ごと対応 [子供会 等]	該当団体	—	施設見学や・実技研修・研修プログラムについての研修を行い、指導者の資質向上をめざす。	学校等の夏期指導者講習会と同様にこの講習会も中Ⅱとした。来年度は、団体のニーズに応じた講習会にするため、午前の実技研修と、午後の講話及び利用調整に分けて実施したい。 事前打ち合わせにおいて、冬の事故等の事例をもとに、リスクマネジメント研修を強化していく。	施設見学・プログラム体験〈選択〉 子どもの育ちを実現する活動と支援 リスクマネジメント研修 利用調整・事務手続	5月28日(日)― 1部 9:00～13:00 2部 13:30～17:00
	5	冬期利用指導者講習会 [子供会 等]	該当団体	—			実技研修〈選択〉 リスクマネジメント研修 利用調整・事務手続	各団体個別に実施
	6	ボランティア スタッフセミナー 1泊2日 [学生・一般]	大学生 大学院生	3名	子ども理解を深め、各事業での具体的な活動を想定しながら研修することにより、ボランティアとしての資質向上を図る。	自然の家の体験活動に魅力を感じ、ボランティア参加への意欲が高まるような研修会にしてい。開催時期を5月の連休前に変更し、大学生がより参加しやすいようにしたい。	ベッドメイキング テント設置 炊飯活動 研修場での支援の在り方(講習) 各種クラフト研修 他	5月6日(土) 日帰り実施 ～7日(日)
Ⅱ 小・中 学 生	7	第25回 わんぱくサマーキャンプ 1泊2日	小4～中2 20名程度	26名	キャンプや自然体験活動を通して、自然の素晴らしさを実感するとともに、友だちと協力することの大切さを感じ取る。	キャンプや炊飯活動、いかだアドベンチャーなど、夏期ならではの活動に取り組ませることができた。リピーターの参加者が多いが、その経験を生かすことができるよう、既存の活動をベースに魅力ある研修活動を仕組んでいきたい。	キャンプ・ナットハイク 追跡ハイキング 還所ハイク 他	7月22日(土) ～23日(日)
	8	第30回 わんぱくウインターキャンプ 1泊2日	小4～中2 20名程度	24名 (申込26名)	冬の自然体験を通して、自然の雄大さ・協力することの大切さを実感するとともに、門松作りなどの伝統文化のよさを味わう。	自然の家の施設やプログラムを活用した研修内容を設定し、自然の中で活動する喜びを体感させるとともに、異学年の交流を大切にした活動を展開することができた。	門松作り 雪上運動会 他	12月23日(土) ～24日(日)
	9	第37期 少年団 1泊2日 年7回	小4 36名程度	①34名 ②36名 ③29名 ④34名 ⑤35名 ⑥34名 ⑦ 名	年間7回の宿泊活動の中で、さまざまな自然体験や仲間との協働体験などを通して、心身ともにたくましく、自然を愛する子どもを育成する。	4年ぶりに1泊2日の活動を年7回行うことができ、学校などでは経験できない体験活動に取り組みながら、学校や学年のリーダーになれるように炊飯活動や宿泊棟での生活など、自然の家の生活における基本的な技能を身につけさせることができた。 また、活動ことの振り返りをいねいに行い自分の変容に気づかせてきたことで、仲間と心で繋がりが共に乗り越えていく心地よさや主体的に行動する充実感を味わわせることができた。	プロジェクト・ハンター・ナイトハイク 他 キャンプ・炊飯活動・いかだ 他 白鷹山VR・プラナ・運動広場野宿 他 ミステリーツアー・うどん打ち 他 3食炊飯活動(芋煮)・草木染め 他 ラング・自作そり 他 雪上運動会・文集・卒園式 他	① 6月 3日(土)～ 4日(日) ② 7月 1日(土)～ 2日(日) ③ 8月 5日(土)～ 6日(日) ④ 9月23日(土)～24日(日) ⑤10月21日(土)～22日(日) ⑥ 1月 6日(土)～ 7日(日) ⑦ 2月24日(土)～25日(日)
	10	わくわくキッズキャンプ 1泊2日 年3回	小3・4 各20名程度	①29名 ②13名 ③35名申込	自然体験活動を通して、自然の素晴らしさを体感するとともに、初めて会う職員や友達と交流する楽しさを味わう。	少年回では研修会ごとに活動テーマを設定しているが、本事業のような単発の事業でも全体を通したコンセプトを設定し、活動の目的や内容を明確にしていきたい。	夏 炊飯活動・東黒森山登山 キャンプファイヤー・いかだ 他 冬 そり作り・チューブ滑り アイスクリーム作り・ラング 他	① 6月17日(土)～18日(日) ② 6月24日(土)～25日(日) ③ 2月 3日(土)～ 4日(日)
	11	森の昆虫見つけ隊 3日間より選択	小3～中3 までの親子 10組20名程度	①21名 ②21名 ③22名	昆虫採集・標本作りを通して、豊かな自然環境を大切にしていこうとする気持ちを育てる。	講師を2名にお願いしていることで、定員を超える申込者を全て受け入れることができた。当日は猛暑で、扇風機の設置や冷たい水の準備など熱中症対策が必要であった。来年度も十分な熱中症対策を行い実施したい。	昆虫採集 昆虫標本づくり	① 7月28日(金) ② 7月29日(土) ③ 7月30日(日)
	12	親子 ふれあい自然体験 日帰り	小1、2年の親子 10組程度	① 6組19名 ②12組34名	親子自然散策や調理などを通して自然の豊かさを体感させるとともに、親子でのふれあいの機会をつくる。	自然体験活動や炊飯活動を通して、親子のコミュニケーションの活性化を図ることができた。保護者の中には、子どもの成長を感じたという感想も多かった。宿泊をなくし、昨年度から日帰りとしたが申込みが多く、来年度も継続したい。	親子自然体験活動 親子炊飯活動 他	① 5月20日(土) ② 5月27日(土)
Ⅲ 親 子	13	親子そば打ち道場 日帰り	中3までの 親子 15組程度	13組42名 (申込31組)	親子での体験を通して、自然の家の役割についての理解を深め、自然に親しむ契機としていただく。	そば打ち体験を通して、親子の絆を深めることをねらいとした。会場や日程、用具の都合上、15家族程度を定員とし、来年度も開催したい。	竹のそば猪口と竹箸づくり そば打ち講習 そば試食会	10月29日(日)
	14	白然の家 秋祭り	一般市民 200名 程度	468名	市民に施設を広く開放し、様々な野外活動・文化活動などの機会を提供することにより、少年自然の家の機能や役割についての理解を深め、豊かな山形の自然環境保全について考える契機としていただく。	今年度も山大学の学生さんによる野外コンサートをしたこと、これまで人気のある活動を継続したことと多くの市民の参加を得ることができた。また、今年度も就労支援所「こんにやく道場」の出店を依頼したことで、会場を盛り上げていただいた。	野外活動 (グランドゴルフ、製作体験 他) 文化活動 (プラネタリウム、各種クラフト 他)	9月3日(日)
	15	周辺の自然を味わう×季節毎	一般市民 20名程度	春 17名 秋 7名 冬 44名 冬 6名	同上	一般市民に、自然の家の施設や活動内容について理解していただくような体験活動の場を提供することができた。今後も新しい取組を検討しながら参加者を増やしていきたい。	自然の家周辺	春4月22日(土) 秋10月1日(日) 冬 令和6年1月27日(土) 冬 令和6年2月24日(土)
	16	家族でキャンプ体験	一般市民 家族5組	8組32名(申込18組) 7組22名(申込19組) 4組15名(申込22組)	一般市民にテント泊によるキャンプ体験を提供し、入門編として今後のキャンプ体験のきっかけとしていただく。	一般市民に、入門期の板橋沼キャンプ場での宿泊体験を提供することをねらいとして2年目の事業だが、どの回も申込み多数でニーズの高さがうかがえる。	板橋沼キャンプ場	① 6月17日(土)～18日(日) ② 6月24日(土)～25日(日) ③ 9月 9日(土)～10日(日)
	17	プラネタリウム 一般公開 年3回	一般市民 70名程度×2回	①130名 ②160名 ③ 67名	一般市民を対象とした生涯学習を目的とし、プラネタリウム体験を通して、星空への興味や関心を高める。※2回目は、自然の家秋祭りの一つの活動として計画する。	午前・午後を対象を分けることで、世代の違いがあっても満足できるような上演に努めた。また、山形大学名誉教授 柴田先生からのご協力をいただきながらの公開としたかったが叶わず、今年度も講師である小さな天文学者の星空案内人と自然の家スタッフ、山形の演奏者とのコラボとなった。今後も小さな天文学者の会との協力体制の下、公開を行っていきたい。	1回目……春・夏の星座 2回目……夏・秋の星座 3回目……秋・冬の星座	① 5月 21日(日) ② 9月 3日(日) ③ 10月28日(土)
	18	白然の家所長杯 モルック大会	一般市民 3名ずつ16組	16組56名	老若男女問わずに楽しめるスポーツをきっかけに外で楽しむ。	山形県モルック協会とこんにやく道場と連携して開催。熟練者と初心者両方に対応した大会内容にして来年度も実施したい。	3名一チームの対抗戦	7月30日(日)
Ⅳ 一 般 市 民	19	サービスセンター クラフトウィーク	一般市民	0名	一般市民を対象とし、自然に親しむとともに、気軽にクラフト体験ができるようにする。	期間を設けても参加者がいなかった。サービスセンターは常時そうした体験ができる場であることを周知するとともに、来年度はクラフトデーとして魅力的な内容で開催し、参加者を募りたい。	自然物でクラフト体験	9月～11月の第三週 9/12～15 10/16～20 11/14～17
	20	雪椿まつり	一般市民 200名 程度	短縮して実施 17名	雪椿の群生地として貴重な場所であることを広く知らせ、環境への関心を高める。	コロナ禍であり通常より日程や内容を短縮して実施。自然環境についての理解を深めていただく場とすることをねらいとして、来年度以降も地元の方々々と協力して実施していく。	少年自然の家職員による説明 他	4月30日(日)
Ⅴ 支 援	21	山形大学 社会教育実習	山形大学 学生	8名	学校教育と社会教育の連携の在り方や子どもに対する支援の在り方について、実際の活動を通して理解を深めさせる。	講義や実技研修を中心とした基本実習と、主催事業の中で実際に子どもに支援する応用実習の関連を明らかにしながら指導にあたった。今年度は1名の日程が合わずに、別日開催とした。	基本実習 ・指導者に必要な支援を学ぶ講義 ・実技研修 他 応用実習 ・実際の支援の在り方を体験する研修	基本 :8月15日(火) ～17日(木) 応用実習 :各主催事業

令和5年度 月別利用状況

5年度		本館						荒沼キャンプ場						板橋沼キャンプ場						野外活動センター						合計						
		小学校	中学校	子供会等	主催事業	その他	小計	小学校	中学校	子供会等	主催事業	その他	小計	小学校	中学校	子供会等	主催事業	その他	小計	小学校	中学校	子供会等	主催事業	その他	小計	小学校	中学校	子供会等	主催事業	その他	小計	
実 団 体 数	4月			1	1		2						0						0				1	1	2	0	0	1	2	1	4	
	5月	7	6		2		15						0	5	4		2	1	12		1			1	2	12	11	0	4	2	29	
	6月	26			3	2	31						0	9		1	2	1	13	4					4	39	0	1	5	3	48	
	7月	16		1	2	10	29						0	8			2		10				4	5	9	24	0	1	8	15	48	
	8月			1	3	5	9						0				1		1			1			1	0	0	2	4	5	11	
	9月	10		1	2	1	14						0	3		1	1		5	13			2		15	26	0	2	5	1	34	
	10月	4		2	5	2	13						0						0	9			1	1	11	13	0	2	6	3	24	
	11月	1		1		2	4						0						0	1				1	2	2	0	1	0	3	6	
	12月			1	1		2						0						0				1		1	0	0	1	2	0	3	
	1月						0						0						0						0	0	0	0	0	0	0	0
	2月						0						0						0						0	0	0	0	0	0	0	0
	3月						0						0						0						0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	64	6	8	19	22	119	0	0	0	0	0	0	25	4	2	8	2	41	27	1	1	9	9	47	116	11	11	36	33	207	
前年度比		64	5	2	17	26	114	1	0	0	0	1	2	15	0	2	11	0	28	33	1	0	10	12	56	113	6	4	38	39	200	
																															103.5%	
人 数	4月			80	17		97						0						0				17	504	521	0	0	80	34	504	618	
	5月	677	1,537		132		2,346						0	495	861		52	60	1,463		194			1,331	1,525	1,172	2,592	0	184	1,391	5,339	
	6月	2,845			168	65	3,078						0	885		64	102	6	1,057	297				538	835	4,027	0	64	270	609	4,970	
	7月	1,810		60	136	552	2,558						0	979			136		1,115				132	847	979	2,789	0	60	404	1,399	4,652	
	8月			16	84	367	467						0				56		56			166		386	552	0	0	182	140	753	1,075	
	9月	1,099		266	238	42	1,645						0	696		54	30		780	833			468	715	2,016	2,628	0	320	736	757	4,441	
	10月	305		58	201	116	680						0						0	708			7	369	1,084	1,013	0	58	208	485	1,764	
	11月	9		20		40	69						0						0	24					24	33	0	20	0	40	93	
	12月			61	62		123						0						0				31	221	252	0	0	61	93	221	357	
	1月						0						0						0						0	0	0	0	0	0	0	0
	2月						0						0						0						0	0	0	0	0	0	0	0
	3月						0						0						0						0	0	0	0	0	0	0	0
	合計	6,745	1,537	561	1,038	1,182	11,063	0	0	0	0	0	0	3,055	861	118	376	66	4,476	1,862	194	166	655	4,911	7,788	11,662	2,592	845	2,069	6,159	23,309	
前年度比		6,696	749	108	474	1,061	9,088	3	0	0	0	34	37	1,444	0	104	275	0	1,823	2,592	57	0	580	4,295	7,524	10,735	806	212	1,329	5,390	18,472	
																															126.2%	

施策 1-2

価値ある豊かな体験活動の充実

子どもの「社会を生き抜く力」として必要な基礎的な資質・能力を養うため、価値ある豊かな体験活動の充実を図る。

また、自然体験活動を通して、子どもたちが自ら学ぶ態度や社会の変化に対応できる総合的な生きる力が身につくように支援する。

■取組 1 発達段階に即した体験活動 【学校教育課】

■取組 2 地域や関係機関と連携した体験活動 【学校教育課】

(1) 学校や地域の特色を生かした体験活動

各学校の特色や地域の文化を生かした豊かな教育活動を展開するため、地域学校協働活動推進員との連携や、学校ボランティアや有識者等の協力を得られるよう支援する。

(2) 企業や行政と連携した体験活動

市立中学校 2 年生の職場体験学習やマナーアップ講習会の実施にあたり、行政や企業等と一体となった取組になるよう支援する。

<主な事務事業>

- ・魅力ある学校づくり推進事業
- ・中 2 ・はたらく体験推進事業

■取組 3 少年自然の家における学校教育への支援 【少年自然の家】

(1) 利用する学校の主体的活動に対する支援

少年自然の家での活動は、校内生活ではなかなか経験できない体験が実践できる機会となる。自然に親しむこと、友達と生活を共にすることなど、利用する学校の宿泊学習のねらいが達成されるように活動を支援する立場として、学校のニーズに応じた指導の工夫・改善を行う。

① 研修プログラムへの支援

自然の家周辺の自然環境や施設を生かした研修活動を提供し、子どもにとってゆとりがあり満足感・達成感を得ることができるプログラムを展開できるように支援する。

② 指導者講習会及び事前打合せ会の充実

指導者を対象とした実技研修、リスクマネジメント等の指導者講習会を行うことで、指導への不安解消、危機管理意識を高め、子どもへの指導の充実や事故の予防を徹底する。

事前打合せ会では、各学校のねらいが達成できるプログラムになっているのかを検討し、子どもが主体的・協働的に学ぶことができるゆとりある研修プログラムになるよう助言する。

また、活動場所の確認や実際に活動を行うなど、指導者がより活動の見通しをもって子どもの指導を行っていくことができるように支援し、子どもが自ら学ぶ体験活動を目指す。

③ 指導資料の活用と整備

利用する学校が活用しやすいように、活動の目的がわかりやすい指導資料を整備し、ホームページ等を利用して資料や情報の提供を行うことで、研修プログラムの作成や手続き等の更なる利便性の向上を目指す。

④ バス利用への支援

小中学生の自然体験活動を推進し充実させていくために、止形市内の小中学校の利用に対して貸し切りバス代等の助成を行う。

施策 6-1

市内小中学生を対象とした自然体験活動を通して生きる力を育む自主事業の実施

豊かな心を育み、安らぎと潤いのある市民生活を支援するため、自然の中での活動やふれあいの場を提供していく。また、環境に関する情報提供を通して、市民が環境について学ぶ場を提供するとともに、次代を担う子どもたちに対する環境学習を実施する。

■取組1 子ども自身による体験学習の場の提供 【少年自然の家】

(1) 年間を通した自然体験宿泊活動（第38期 少年団）

心身ともにたくましく、自然を愛する子どもを育成するため、「少年団」を結成し、年7回（一泊二日×7回）の継続した活動を行う。プロジェクトアドベンチャー、野外炊飯活動、白鷹山ウォークラリーなど、日常生活では経験できない自然体験活動を行い、自分で生活を創っていくために必要な基本的技能を身につけるとともに、集団生活を通してリーダーとしての資質を高めることも目的とする。

(2) 季節に応じた自然体験宿泊活動

児童生徒を対象に、夏にはテント泊、いかだアドベンチャー、また、冬には門松作り、雪上運動会など、その季節にしかできない自然宿泊体験活動を実施する。季節で変化する自然のすばらしさと厳しさにふれることにより、自然に対する畏敬の念を深めることを目指す。あわせて、初めて出会う仲間と協力することにより、人とのかかわりのよさを再認識することも目的とする。

① サマーキャンプ・ウィンターキャンプ（各1回）

市内小学4年生から中学生2年生までを対象に、季節に応じ冒険的要素を取り入れた宿泊体験活動を長期休業中に実施する。

② キッズキャンプ（夏×1回 冬×1回）

自然に対する興味関心を高めるとともに、人とのかかわりのよさを再認識することができるように、市内小学3、4年生を対象にした育成事業を年2回実施する。

■取組2 親子によるふれあいの場の提供の推進 【少年自然の家】

(1) 親子そば打ち道場

自然に親しみながら親子の絆を深めることができるように、自然の家周辺で取れた竹を使ってそば猪口や箸を作ったり、そば打ちを行ったりする。また、そば打ちの講師として地域人材を活用することにより、地域コミュニティの活性化を図る。

(2) 親子ふれあい自然体験（2回）

親子自然散策や焚火での調理などを通して、親子のコミュニケーションの活性化を図り、親子で自然の豊かさを体験する活動を行う。

親子での協働のもと子どもの自立を促すために、保護者へ「見守る姿勢」の重要性も伝えながら、活動を展開する。

■取組３ 自然と共生する事業の充実 【少年自然の家】

(1) 野外活動センターにおける野草・昆虫標本・水生生物の展示や標本づくり体験

自然環境に対する認識を深め、環境保全への実践力を高めるため、野草や昆虫等の標本及び水生生物を展示する。また、年間３回にわたって、昆虫標本づくりを体験する「森の昆虫見つけ隊」を実施する。

(2) 施設一般開放

広く市民に自然の家の施設や活動内容について理解してもらい、自然に親しむきっかけとなるよう、施設を市民に開放し、野外活動・創作活動などの機会を提供する。また、野外活動センターにおいての市民の利活用が促進されるよう広報していく。

(3) プラネタリウム的一般公開（３回）

天体への興味や関心を高めるために、市民を対象にしたプラネタリウム的一般公開を行う。

あわせて、プラネタリウム後に実際の星空の観察や天体望遠鏡による観察を行い、星空への関心を更に高める。また、「小さな天文学者の会」と連携し、より専門的な知識を借りながら開催する。

(4) スキー場の一般開放

スキーやそりすべり、チューブすべりなど、積雪時の自然とのかかわりを体験し、自然環境への理解を深めるため、冬季に野外活動センター前のゲレンデを一般開放する。また、親子一緒に雪遊びを通し、親子の絆を深めるとともに保護者の方には童心に帰る楽しさを味わうことができる場の提供を目指す。

冬季の自然を楽しみ、動物の足跡や植物の冬芽などの環境を観察するため、自然の家周辺を散策するラングラウフスキーの貸出し（小中学生無料）も行う。

成果指標

目標名	実績		目標値		
	R 4	R 5	R 6	R 7	R 8
少年自然の家を利用する 山形市立小・中学校数(校)	3 6	3 6	3 6	3 6	3 6
	4	5	8	1 2	1 5

施策
6-2

広く市民が「自然と人間の共生」について学ぶ環境整備の推進

安全・安心な施設の運営を図るとともに、自然環境の保全に配慮しながら施設・設備の活用を図る。

■取組 1 各種利用団体への支援 【少年自然の家】

子ども会等、自然の家を利用する各種団体の目的を明確にした体験活動を通して、子どもが自ら学ぶ態度や社会の変化に対応できる総合的な力を身につけることを目指し、活動を支援する立場として研修プログラムへの支援や指導の工夫・改善を行う。

(1) 研修プログラムへの支援

自然の家周辺の自然環境や施設を活かした研修活動を提供し、子どもにとってゆとりがあり満足感・達成感を得ることができるプログラムを展開していくことができるように支援する。

(2) 指導者講習会及び事前打合せ会の充実

指導者を対象とした実技研修、リスクマネジメント等の指導者講習会を行うことで、指導への不安解消、危機管理意識を高め、子どもへの指導の充実や事故の予防を徹底する。

事前打合せ会では、各団体のねらいが達成できるプログラムになっているのかを検討し、子どもが主体的・協働的に学ぶことができるゆとりある研修プログラムになるよう助言する。

また、活動場所の確認や実際に活動を行う等、指導者がより活動の見通しをもって子どもの指導を行っていくことができるように支援し、子どもが自ら学ぶ体験活動を目指す。

(3) 指導資料の活用と整備

利用する団体が活用しやすいように、活動の目的がわかりやすい指導資料を整備し、ホームページ等を利用して資料や情報の提供を行うことで、研修プログラムの作成や手続き等の更なる利便性の向上を目指す。

■取組 2 野外活動センターの事業の充実 【少年自然の家】

(1) 環境に関する情報提供

自然保護の意識を高めるために、野止に住む生き物の模型や自然の家周辺の動植物の写真などの掲示等を用いて、環境に関する情報を提供する。また、季節ごとに特徴的な動植物等の展示も行う。

(2) 野外活動の発信及び季節毎の周辺自然観察会の実施(4回)

少年自然の家の野外活動に対する興味や関心を高めるために、ホームページや所報等で情報の発信をする。また、季節に合わせて(春1回・秋1回・冬2回)市民対象の自然観察会を行い、周辺の自然の魅力を伝えていく。

(3) 市民へのキャンプ入門の場の提供(3回)

板橋沼キャンプ場の無料提供を実施し、入門期のキャンプ場利用の提供を行う。このことによって、広く市民に自然の家の活動内容や施設の機能の理解を促す。

(4) 相談機能の充実

利用者からの自然の家周辺の自然環境に関する問い合わせや、児童生徒の課題研究への相談に対応するため、野外活動センター職員を対象とした、動植物等の自然環境に関する研修を実施する。

■取組3 社会貢献活動の推進 【少年自然の家】

(1) ボランティア・社会教育スタッフ育成事業

生涯学習や社会教育に関わる人材を育成するために、大学生(山形大学・東北文教大学・東北芸術工科大学等)を対象にしたボランティアの育成とともに、山形大学・東北芸術工科大学の社会教育実習への協力を行う。

自主事業で行う活動を実際に体験しながら、体験活動を通した子どもの資質・能力や子どもへの指導・支援のポイントについて具体的に学ぶ。

■取組4 施設環境の整備の推進 【少年自然の家】

(1) 施設・設備の改修・安全管理

施設利用者が安心・安全に活動することができるようにするために、定期的な点検を行い、施設・設備の維持・改修・安全管理に努める。

(2) 環境保全

少年自然の家の環境保全とともに、広く市民が環境保全を推進するきっかけをつくるために、コンポストによる生ごみの処理や合成洗剤等の使用制限などを行う。

(3) コロナウィルス感染症に対応した施設の環境整備と活動の提供

コロナ禍の中にあっても、感染症のリスクをできる限り抑えて活動ができるような環境整備と、リスクを低く抑えた活動を確保する。感染症のレベルに応じた活動を提案し、できる限り受入体制を継続していく。

■取組5 職員研修の充実 【少年自然の家】

(1) 研修スタッフへの計画的な研修

充実した体験学習の推進のため、研修活動を適切に指導・支援することができるよう、研修スタッフ全員を対象にした計画的な職員研修を実施する。また、各事業及び各団体への支援におけるPDCA（計画・実施・評価・改善）のサイクルを日常的に行う。

(2) 危機管理及びリスクマネジメント研修の充実

安全管理の徹底とリスクマネジメントの充実を図るために、危機管理マニュアルの見直しや避難訓練、救急蘇生講習会の継続的な実施を行う。

(3) 積極的なモニター事業の実施と次年度への反映

新たな事業の運営・実施につながるようなモニター事業を積極的に実施し、次年度以降の主催事業へとつなげていくことができるようにする。

■取組6 課題等の検討 【教育企画課・少年自然の家】

(1) 山形市少年自然の家の今後のあり方の検討

令和5年度に定めた「山形市少年自然の家の今後のあり方（案）」に基づき、学校教育を支援する機能を継続しつつも、教育施設という現在の施設の位置付けを見直し、子どもから大人まで、障がい者も高齢者も、幅広い層が、施設や自然環境をはじめ、地域資源の魅力を様々な用途で楽しむことができる、持続可能な施設へと転換していくことを目指し、今後、基本構想を策定する中で、公民連携も含めて具体的な事業手法の検討を行う。

令和6年度 主催事業実施計画

山形市少年自然の家

対象	No.	主 催 事 業 名	募集人員	ね ら い	方 向 性	主 な 内 容	期 日
Ⅰ 指 導 者	1	夏期利用指導者講習会 〔小・中学校教員 等〕	該当団体	各校の活動プランを、自然の家のねらい及び指導者や子どもの願いを反映したものにするために、実技研修・育ちを実現するための活動と支援についての研修・リスクマネジメント研修を行い、指導者の資質向上をめざすとともに、利用団体間の利用調整を行う。	各校の「子どもが育つプログラム」をデザインする力を高めることを踏まえ、さらには若手教員が増えている実情にも配慮し、2部構成で実施する。 第1部(午前)は実技研修。第2部(午後)は必修とし、育ちを実現するための活動と支援やリスクマネジメント・手続き等を学ぶ研修及び各団体間の利用調整を実施する。参加する教員の負担軽減も考慮して第2部の開始時間を30分遅くする。また、冬期講習会については、実技研修の必要がないことから午後のみの実施とし、会場も市街地公民館等を利用する。	施設見学・実技研修(選択) 子どもの育ちを実現する活動と支援 リスクマネジメント研修 利用調整・事務手続	4月16日(火) 1 8時 9:00～12:00 2 8時 14:00～17:00
	2	秋期利用指導者講習会 〔小・中学校教員 等〕	該当団体			施設見学・実技研修(選択) 子どもの育ちを実現する活動と支援 リスクマネジメント研修 利用調整・事務手続	8月1日(木) 1 8時 9:00～13:00 2 8時 14:00～17:00
	3	冬期利用指導者講習会 〔小・中学校教員 等〕	該当団体			子どもの育ちを実現する活動と支援 リスクマネジメント研修 利用調整・事務手続	12月3日(火) 14:20～16:50
	4	利用指導者講習会 〔子供会 等〕	該当団体		団体のニーズに応じた講習会にするため、午前の部の実技研修と、午後の部の講話及び利用調整に分けて実施する。 冬の事故等の事例をもとに、リスクマネジメント研修を強化していく。	施設見学・プログラム体験(選択) 子どもの育ちを実現する活動と支援 リスクマネジメント研修 利用調整・事務手続	5月12日(日) 1 8時 9:00～13:00 2 8時 13:30～17:00
	5	冬期利用指導者講習会 〔子供会 等〕	該当団体			実技研修(選択) リスクマネジメント研修 利用調整・事務手続	各団体個別に実施
	6	ボランティア スタッフセミナー 1泊2日 〔学生・一般〕	大学生 大学院生	子ども理解を深め、各事業での具体的な活動を想定しながら研修することにより、ボランティアとしての資質向上を図る。	実際の体験活動を通して、児童の特性や価値ある体験活動にするための支援等を学び、ボランティアスタッフとしての仕事を理解することができる内容を設定する。	ベッドメイキング テント設置 炊飯活動 研修場面での支援の在り方(講習) 各種クラフト研修 他	4月27日(土) ～28日(日)
Ⅱ 小・中 学 生	7	第26回 わんぱくサマーキャンプ 1泊2日	小4～中3 30名程度	キャンプや自然体験活動を通して、自然の素晴らしさを実感するとともに、友だちと協力することの大切さを感じ取る。	キャンプやウォークラリー、表現活動、製作活動などをバランスよく仕組み、協働体験や自然体験の喜びを体感させる。異学年の交流を大切にした活動を展開する。	キャンプ・ナイトハイク 追跡ハイキング 退所ハイク 他	8月3日(土) ～4日(日)
	8	第31回 わんぱくウインターキャンプ 1泊2日	小4～中2 30名程度	冬の自然体験を通して、自然の雄大さ・協力することの大切さを実感するとともに、門松作りなどの伝統文化のよさを味わう。	自然の家の施設やプログラムを活用した研修内容を設定し、自然の中で活動する喜びを体感させる。異学年の交流を大切にした活動を展開する。	門松づくり 雪上運動会 他	12月21日(土) ～22日(日)
	9	第38期 少年団 1泊2日 年7回	小4 30名程度	年間7回の宿泊活動の中で、さまざまな自然体験や仲間との協働体験などを通して、心身ともにたくましく、自然を愛する子どもを育成する。	学校などでは経験できない体験活動を提供し、学校や学年のリーダーになれるように炊飯活動や宿泊棟での生活など、基本的な技能を身につけることができるようにする。 また、苦労の中にも「夢や願い」をもつことができるような活動を吟味し、仲間と心で繋がりに乗り越えていく心地よさや主体的に行動する充実感を味わえるように支援する。	プロジェクトアドベンチャー・ナイトハイク 他 キャンプ・炊飯活動・いかだ 他 白蔵山WVR・プラネ・運動広場野宿 他 ミステリーツアー・うどん打ち 他 3食炊飯活動(芋煮)・草木染め 他 ラング・自作そり 他 雪上運動会・文集・卒団式 他	① 6月 8日(土)～ 9日(日) ② 7月 6日(土)～ 7日(日) ③ 8月24日(土)～25日(日) ④ 9月28日(土)～29日(日) ⑤10月26日(土)～27日(日) ⑥ 1月11日(土)～12日(日) ⑦ 2月22日(土)～23日(日)
	10	わくわくキッズキャンプ 1泊2日 年2回	小3・4 各30名程度	自然体験活動を通して、自然の素晴らしさを体感するとともに、初めて会う職員や友達と交流する楽しさを味わう。	学校等で経験できないプログラムを提供し、炊飯活動や宿泊棟での生活など基本的な技能を身につけることができるようにする。	夏 炊飯活動・東黒森山登山 キャンプファイヤー・いかだ 他 冬 そり滑り・チューブ滑り アイスクリーム作り・ラング 他	① 6月22日(土)～23日(日) ② 2月 1日(土)～ 2日(日)
	11	森の昆虫見つけ隊 3日間より選択	小3～中3 までの親子 10組20名程度	昆虫採集・標本作りを通して、豊かな自然環境を大切にしていこうとする気持ちを育てる。	土日に実施し、親子で参加しやすいようにする。また、多くの参加者が見込まれる際には、複数の講師を招聘し、十分な対応ができるようにする。	昆虫採集 昆虫標本づくり	① 7月26日(金) ② 7月27日(土) ③ 7月28日(日)
	12	親子 ふれあい自然体験 日帰り	小1～3年の親子 10組程度	親子自然散策や調理などを通して自然の豊かさを体感させるとともに、親子でのふれあいの機会をつくる。	自然体験活動や炊飯活動を通して、親子のコミュニケーションの活性化を図る。また、子どもの体験を豊かにするための「見守る姿勢」の重要性も伝えながら、活動を展開する。	親子自然体験活動 親子炊飯活動 他	5月11日(土) 5月25日(土)
Ⅲ 親 子	13	親子そば打ち道場 日帰り	中3までの親子 15組程度	親子での体験を通して、自然の家の役割についての理解を深め、自然に親しむ契機としていただく。	Myそば猪口・ My著作りやそば打ちを通して、親子の絆を深める。また、地域人材を活用し、地域に伝わる技術を継承する。	竹のそば猪口と竹箸づくり そば打ち講習 そば試食会	11月9日(土)
Ⅳ 一 般 市 民	14	自然の家 秋祭り	一般市民 200名程度	市民に施設を広く開放し、様々な野外活動・文化活動などの機会を提供することにより、少年自然の家の機能や役割についての理解を深め、豊かな山形の自然環境保全について考える契機としていただく。	一般市民に、自然の家の施設や活動内容について理解していただくような体験活動の場を提供する。 また、人気のある特製芋煮を多めに用意し、多くの方々に喜んでいただけるようにする。	野外活動 (ディスクゴルフ、ツリークライミング 他) 文化活動 (森のコンサート、各種クラフト 他)	9月22日(日)
	15	周辺の自然を味わう×季節毎	一般市民 20名程度	同上	一般市民に、自然の家の施設や活動内容について理解していただくような体験活動の場を提供する。	自然の家周辺	春 4月27日(土) 秋 10月13日(日) 冬 令和7年1月26日(日)
	16	家族でキャンプ体験	一般市民 家族5組	一般市民にテント泊によるキャンプ体験を提供し、入門編として今後のキャンプ体験のきっかけとしていただく。	一般市民に、入門期の板橋沼キャンプ場での宿泊体験を提供する。	板橋沼キャンプ場	① 6月29日(土)～30日(日) ② 7月13日(土)～14日(日) ③ 9月 7日(土)～ 8日(日)
	17	プラネタリウム一般公開 年3回	一般市民 70名程度×2回	一般市民を対象とした生涯学習を目的とし、プラネタリウム体験を通して、星空への興味や関心を高める。※2回目は、自然の家秋祭りの一つの活動として計画する。	世代の違いがあっても満足できるような上演に努める。また、山形大学名誉教授 柴田先生からのご協力をいただきながらの公開となる。	1回目……春・夏の星座 2回目……夏・秋の星座 3回目……秋・冬の星座	① 5月 26日(日) ② 7月 14日(日) ③ 10月13日(日)
	18	自然の家所長杯 モルック大会	一般市民 3名ずつ16組	老若男女問わずに楽しめるスポーツをきっかけに外で楽しむ。	手入れされた芝の上で活動することで、自然に出ることの楽しさを感じてもらう。	3名一チームの対抗戦 (親子の部、一般の部)	6月30日(日)
	19	ラングラウフスキー体験会	一般市民 15名程度	初心者を対象に体験会を開き、冬の手軽なスポーツの楽しさを味わっていただく。	自然の家の冬期間のアクティビティーの周知を図る。	ラングラウフスキー体験	令和7年1月26日(日)
	20	サービスセンター クラフトデー	一般市民	一般市民を対象とし、自然に親しむとともに、気軽にクラフト体験ができるようにする。	自然物を用いて、気軽にクラフトの体験をしてもらい、来所の満足度を高める。	自然物でクラフト体験	令和6年10月12日(土)
	21	雪橇まつり	一般市民 200名程度	雪橇の群生地として貴重な場所であることを広く知らせ、環境への関心を高める。	地元の方々に協力しながら、自然環境についての理解を深めていただく場とする。	自然の家職員による説明 他	4月下旬頃
Ⅴ 共 催	22	山形大学 社会教育実習	山形大学 学生	学校教育と社会教育の連携の在り方や子どもに対する支援の在り方について、実際の活動を通して理解を深めさせる。	講義や実技研修を中心とした基本実習と、主催事業の中で実際に子どもに支援する応用実習の関連を明らかにしながら指導にあたる。	基本実習 ・指導者に必要な支援を学ぶ講義 ・実技研修 他 応用実習 ・実際の支援の在り方を体験する研修	基本:8月 14日(火) ～16日(木) 応用実習:各主催事業

令和6年度 利用団体予定一覧表(令和6年1月26日現在)

山形市少年自然の家

9 月						10 月						11 月						12 月						1 月						2 月						3 月					
日	曜	行	事	本館	サービスセンター	日	曜	行	事	本館	サービスセンター	日	曜	行	事	本館	サービスセンター	日	曜	行	事	本館	サービスセンター	日	曜	行	事	本館	サービスセンター	日	曜	行	事	本館	サービスセンター						
1	日					火				金	金井小①132	日						1	水	※※※																					

※※※※…は休館日。 ▲▲▲▲…は主催事業。「網掛け」のところは施設点検日。 以上の部分については、受け入れができませんので、ご理解の程よろしくお願いします。

令和6年度 利用団体予定一覧表(令和6年1月26日現在)

山形市少年自然の家

4 月					5 月					6 月					7 月					8 月								
日	曜	行	事	本館 サービス センター	日	曜	行	事	荒沼キャンプ場 本館	板橋キャンプ場 サービスセンター	日	曜	行	事	荒沼キャンプ場 本館	板橋キャンプ場 サービスセンター	日	曜	行	事	荒沼キャンプ場 本館	板橋キャンプ場 サービスセンター	日	曜	行	事	荒沼キャンプ場 本館	板橋キャンプ場 サービスセンター
1	月	施設点検日			水	1	月	臨時開所日			1	月	臨時開所日				1	月	臨時開所日				1	月	臨時開所日			
2	火	施設点検日			木	2	火	臨時開所日			2	火	臨時開所日				2	火	臨時開所日				2	火	臨時開所日			
3	水	施設点検日			金	3	水	臨時開所日			3	水	臨時開所日				3	水	臨時開所日				3	水	臨時開所日			
4	木	施設点検日			土	4	木	臨時開所日			4	木	臨時開所日				4	木	臨時開所日				4	木	臨時開所日			
5	金	施設点検日			日	5	金	臨時開所日			5	金	臨時開所日				5	金	臨時開所日				5	金	臨時開所日			
6	土	施設点検日			月	6	土	臨時開所日			6	土	臨時開所日				6	土	臨時開所日				6	土	臨時開所日			
7	日	施設点検日			火	7	日	臨時開所日			7	日	臨時開所日				7	日	臨時開所日				7	日	臨時開所日			
8	月	施設点検日			水	8	月	臨時開所日			8	月	臨時開所日				8	月	臨時開所日				8	月	臨時開所日			
9	火	施設点検日			木	9	火	臨時開所日			9	火	臨時開所日				9	火	臨時開所日				9	火	臨時開所日			
10	水	施設点検日			金	10	水	臨時開所日			10	水	臨時開所日				10	水	臨時開所日				10	水	臨時開所日			
11	木	施設点検日			土	11	木	臨時開所日			11	木	臨時開所日				11	木	臨時開所日				11	木	臨時開所日			
12	金	施設点検日			日	12	金	臨時開所日			12	金	臨時開所日				12	金	臨時開所日				12	金	臨時開所日			
13	土	施設点検日			月	13	土	臨時開所日			13	土	臨時開所日				13	土	臨時開所日				13	土	臨時開所日			
14	日	施設点検日			火	14	日	臨時開所日			14	日	臨時開所日				14	日	臨時開所日				14	日	臨時開所日			
15	月	施設点検日			水	15	月	臨時開所日			15	月	臨時開所日				15	月	臨時開所日				15	月	臨時開所日			
16	火	施設点検日			木	16	火	臨時開所日			16	火	臨時開所日				16	火	臨時開所日				16	火	臨時開所日			
17	水	施設点検日			金	17	水	臨時開所日			17	水	臨時開所日				17	水	臨時開所日				17	水	臨時開所日			
18	木	施設点検日			土	18	木	臨時開所日			18	木	臨時開所日				18	木	臨時開所日				18	木	臨時開所日			
19	金	施設点検日			日	19	金	臨時開所日			19	金	臨時開所日				19	金	臨時開所日				19	金	臨時開所日			
20	土	施設点検日			月	20	土	臨時開所日			20	土	臨時開所日				20	土	臨時開所日				20	土	臨時開所日			
21	日	施設点検日			火	21	日	臨時開所日			21	日	臨時開所日				21	日	臨時開所日				21	日	臨時開所日			
22	月	施設点検日			水	22	月	臨時開所日			22	月	臨時開所日				22	月	臨時開所日				22	月	臨時開所日			
23	火	施設点検日			木	23	火	臨時開所日			23	火	臨時開所日				23	火	臨時開所日				23	火	臨時開所日			
24	水	施設点検日			金	24	水	臨時開所日			24	水	臨時開所日				24	水	臨時開所日				24	水	臨時開所日			
25	木	施設点検日			土	25	木	臨時開所日			25	木	臨時開所日				25	木	臨時開所日				25	木	臨時開所日			
26	金	施設点検日			日	26	金	臨時開所日			26	金	臨時開所日				26	金	臨時開所日				26	金	臨時開所日			
27	土	施設点検日			月	27	土	臨時開所日			27	土	臨時開所日				27	土	臨時開所日				27	土	臨時開所日			
28	日	施設点検日			火	28	日	臨時開所日			28	日	臨時開所日				28	日	臨時開所日				28	日	臨時開所日			
29	月	施設点検日			水	29	月	臨時開所日			29	月	臨時開所日				29	月	臨時開所日				29	月	臨時開所日			
30	火	施設点検日			木	30	火	臨時開所日			30	火	臨時開所日				30	火	臨時開所日				30	火	臨時開所日			
31	水	施設点検日			金	31	水	臨時開所日			31	水	臨時開所日				31	水	臨時開所日				31	水	臨時開所日			

※※※※…は休館日。 ▲▲▲▲…は主催事業。「網掛け」のところは施設点検日。 以上の部分については、受け入れができませんので、ご理解の程よろしくお願いします。

※※※※※は休館日。 ▲▲▲▲▲は主催事業。「網掛け」のところは施設点検日。 以上の部分については、受け入れができませんので、ご理解の程よろしくお願いします。

山形市少年自然の家の今後のあり方（案）について

山形市少年自然の家は、昭和54年の開所以来、自然に親しみながら仲間と共に「直接体験活動」を安全かつ計画的に実施できる社会教育施設として、子ども達を中心にこれまで多くの人達に利用されてきました。

しかし、少子化の影響等もあり、利用者数が長期的に減少傾向であるほか、施設の老朽化も進み多額の改修費用が予想されることから、今後も持続可能な運営を行っていくための有効な方策について、庁内にプロジェクトチームを設置し検討を続けてきました。

その検討過程では、学識経験者や利用団体関係者、地元関係者、アウトドア関係事業者がメンバーとなり設置された外部有識者会より、当施設の役割や、学校中心の利用にとどまらない施設の広範な利活用等についての提言がありました。また、サウンディング型市場調査では、民間事業者より、当施設を利活用した事業への参入意欲が示され、具体的な事業イメージ等についての提案がありました。

こうした検討の結果を踏まえ、山形市では次のとおり「山形市少年自然の家の今後のあり方（案）」を定めます。

1. 施設の今後のあり方について

当施設は現在、自然の中における体験活動の場として、学校を中心に利用されていますが、現状の使われ方では、利用される時期に偏りがあるほか、周辺の豊かな自然環境を含めた施設機能も十分に活かしきれていません。

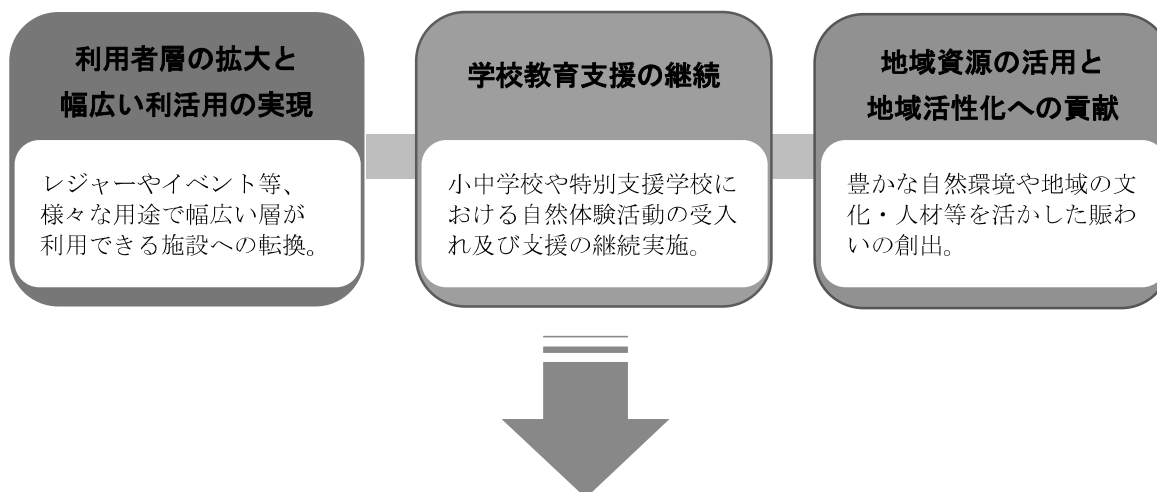
このため、学校中心の利用にとどまらず、家族でのレジャーやイベント等、様々な用途で幅広い層から利用されることにより、当施設の持つ本来のポテンシャルが十分に発揮されるものと考えます。

一方で、学校の体験活動においては、一度に多くの児童・生徒が利用できる安全な宿泊環境が必要であり、また、様々な天候においても臨機応変に体験活動が実施できる環境や支援が求められます。こうした環境や受入れ態勢を、近隣施設等で代替することには課題もあることから、学校教育の支援に不可欠な機能については、今後も当施設の役割として継続していく必要があります。

また、当施設の周辺には、山形市西部の恵まれた自然環境以外にも、豊かな地域の文化が存在するほか、それらを良く知る地元の方々が施設の運営面で活躍しています。こうした地域の資源や人材を活用しながら、当施設も含めた周辺エリア全体の活性化へと繋げていくことも重要です。

以上のことから、施設の今後のあり方については、学校教育を支援する機能を継続しつつも、教育施設という現在の施設の位置付けを見直し、子どもから大人まで、障がい者も高齢者も、幅広い層が、施設や自然環境をはじめ、地域資源の魅力を様々な用途で楽しむことができる、持続可能な施設へと転換していくことを目指します。

【基本的な方向性】



【コンセプト】

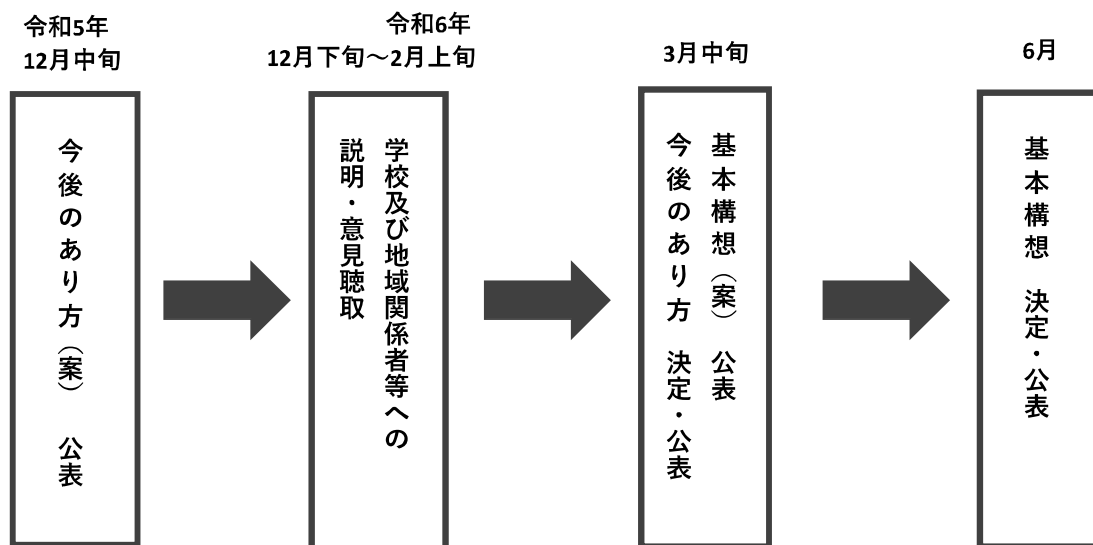
教育のための施設から、幅広い層に
「学び・遊び・集い・憩い・ふれあい」を提供する空間へ

要素	期待される姿
↑ 学び	動植物の観察やキャンプ体験、野外炊飯活動、自然を活用したワークショップ等、学校教育をはじめ、家族や社会人等も、自然を通して学び合える空間へ
相 遊 び	いかだアドベンチャーやフィールドアスレチック、雪上チューブ滑り等、恵まれた自然環境を利用し、子どもから大人まで、夢中で遊ぶことができる空間へ
互 集 い	部活動やサークル活動の合宿、家族や仲間同士のアウトドア利用、野外フェスティバルの開催等、これまでには無い活用により、新たな集いや出会いが生まれる空間へ
作 憩 い	森林浴を兼ねたウォーキングやグランピング、地域の食材を味わうことのできるレストランやカフェ等、市民の健康増進や心身のリフレッシュに繋がる憩いの空間へ
↓ ふれあい	豊かな自然環境とのふれあいやマルシェを通じた地元生産者とのふれあい、家族や仲間、ペットと共に過ごす時間を通じたふれあい等、様々なふれあいを楽しむことができる空間へ

2. 今後の進め方

学校中心の利用にとどまらない施設の広範な利活用を持続可能な形で進めていくためには、新たなアイデアやノウハウも豊富に取り入れ、集客力のある魅力的なコンテンツ等を創出していく必要があります。

このため、その実現に向けては、今後基本構想を策定する中で、公民連携も含めて具体的な事業手法を検討していきます。



3. その他

今後のあり方への移行期間中については、可能な限り現在の受入れ事業を継続し、利用団体等への影響が最小限となるよう配慮します。

また、今後のあり方への移行にあたっては、現在の利用団体や地元従事者等、関係者等と十分な対話や調整を行いながら進めていきます。